

表 8-2-2

F1 性別	1 そっとしておけば部落差別はなくなる	4 部落差別について学習するから差別はなくなるらない	6 部落差別をなくすために啓発活動に力を入れるべきだ・逆
男性	2.8	2.9	2.6
女性	2.8	2.9	2.6
性別未選択者	3.3	3.1	2.5
合計	2.8	2.9	2.6

表 8-2-1 と表 8-2-2 から、次のような解釈が可能です。

「1 そっとしておけば部落差別はなくなる」、「4 部落差別について学習するから差別はなくなるらない」、は、男性および女性と比較して性別未選択者において平均値が高いことがわかります。しかし、「6 部落差別をなくすために啓発活動に力を入れるべきだ」については、逆に、男性と女性が性別未選択者よりも、幾分、平均値が高い結果となっています。

これらの結果から、部落差別の考え方について、いずれの性の人権意識が高いのか、一概に結論づけることはできません。

表 8-3-1 は、年齢と部落差別に関する考え方との関連をみたものです。

「3 差別を受けてきた地域の人びとには、なんら差別される理由はない」以外の 6 項目について、年齢との間に統計的有意差が認められました。

表 8-3-2 は、表 8-3-1 において統計的に有意差が認められた項目について、平均値を求めたものです。

表 8-3-1

		合計	そう思う	そう思う	どちらでもない	どちらでもない	統計的検定
1 そっとしておけば部落差別はなくなる	10歳代	127	12.6%	15.0%	29.1%	43.3%	p<.001 ***
	20歳代	173	8.7%	20.8%	28.9%	41.6%	
	30歳代	177	9.6%	28.8%	29.9%	31.6%	
	40歳代	192	8.9%	29.2%	30.7%	31.3%	
	50歳代	213	8.0%	28.6%	28.6%	34.7%	
	60歳代	263	11.4%	31.2%	25.5%	31.9%	
	70歳代以上	227	21.6%	29.1%	22.5%	26.9%	
	合計	1372	11.7%	27.0%	27.6%	33.7%	
2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる	10歳代	127	3.1%	15.0%	26.8%	55.1%	p<.001 ***
	20歳代	173	9.8%	21.4%	20.2%	48.6%	
	30歳代	177	11.9%	25.4%	22.6%	40.1%	
	40歳代	193	13.5%	32.1%	20.2%	34.2%	
	50歳代	215	12.1%	33.5%	28.8%	25.6%	
	60歳代	264	3.8%	31.8%	29.9%	34.5%	
	70歳代以上	227	5.7%	33.9%	27.3%	33.0%	
	合計	1376	8.5%	28.8%	25.5%	37.2%	
3 差別を受けてきた地域の人びとには、なんら差別される理由はない	10歳代	123	62.6%	22.8%	6.5%	8.1%	p=.078
	20歳代	172	60.5%	27.3%	8.7%	3.5%	
	30歳代	176	51.7%	32.4%	8.5%	7.4%	
	40歳代	193	61.7%	28.0%	7.8%	2.6%	
	50歳代	214	49.1%	38.8%	7.5%	4.7%	
	60歳代	262	60.3%	29.8%	4.6%	5.3%	
	70歳代以上	227	56.4%	31.3%	8.8%	3.5%	
	合計	1367	57.2%	30.6%	7.4%	4.8%	
4 部落差別について学習するから差別はなくならない	10歳代	126	7.1%	14.3%	38.9%	39.7%	p=.001 **
	20歳代	173	5.2%	15.6%	41.0%	38.2%	
	30歳代	176	7.4%	23.9%	36.4%	32.4%	
	40歳代	193	13.5%	23.3%	36.3%	26.9%	
	50歳代	214	8.9%	23.4%	38.3%	29.4%	
	60歳代	260	11.5%	22.3%	31.2%	35.0%	
	70歳代以上	223	15.2%	27.8%	26.9%	30.0%	
	合計	1365	10.3%	22.1%	34.9%	32.7%	

つづき

		合計	そう思う	言えそう と思 う	ど 思 え ち わ ら な い と	言 え ば そ う と	ど ち ら か と	そ う は 思 わ ない	統計的 検 定
5 今後も部落差別はなくならないと思う	10歳代	126	11.9%	32.5%	38.9%	16.7%	p=.042 *		
	20歳代	171	8.8%	42.7%	28.1%	20.5%			
	30歳代	179	10.6%	30.7%	34.6%	24.0%			
	40歳代	193	16.6%	31.1%	32.1%	20.2%			
	50歳代	214	9.8%	37.4%	35.0%	17.8%			
	60歳代	262	8.4%	32.8%	29.8%	29.0%			
	70歳代以上	223	10.3%	31.4%	32.3%	26.0%			
	合計	1368	10.7%	34.0%	32.6%	22.7%			
6 部落差別をなくすために啓発活動に力を入れる	10歳代	126	18.3%	50.8%	21.4%	9.5%	p=.001 **		
	20歳代	172	16.3%	51.2%	23.8%	8.7%			
	30歳代	177	5.6%	44.1%	36.2%	14.1%			
	40歳代	192	16.1%	32.8%	38.5%	12.5%			
	50歳代	212	10.8%	38.7%	37.3%	13.2%			
	60歳代	259	15.1%	40.2%	29.3%	15.4%			
	70歳代以上	222	15.3%	38.7%	32.0%	14.0%			
	合計	1360	13.8%	41.5%	31.8%	12.9%			
7 部落差別などの同和問題を知らない	10歳代	125	17.6%	20.8%	24.8%	36.8%	p<.001 ***		
	20歳代	173	16.2%	25.4%	23.1%	35.3%			
	30歳代	179	11.7%	21.2%	20.7%	46.4%			
	40歳代	192	4.2%	13.5%	25.5%	56.8%			
	50歳代	215	3.7%	10.2%	23.3%	62.8%			
	60歳代	261	3.8%	13.0%	21.1%	62.1%			
	70歳代以上	217	8.8%	20.7%	19.8%	50.7%			
	合計	1362	8.5%	17.3%	22.4%	51.8%			

表 8-3-2

F2 年齢	1 そっとしておけば部落差別はなくなる・逆	2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる・逆	4 部落差別について学習するから差別はなくならない・逆	5 今後も部落差別はなくならないと思う・逆	6 部落差別をなくすために啓発活動に力を入れるべきだ	7 部落差別などの同和問題を知らない・逆
10歳代	3.0	3.3	3.1	2.6	2.8	2.8
20歳代	3.0	3.1	3.1	2.6	2.8	2.8
30歳代	2.8	2.9	2.9	2.7	2.4	3.0
40歳代	2.8	2.8	2.8	2.6	2.5	3.4
50歳代	2.9	2.7	2.9	2.6	2.5	3.5
60歳代	2.8	3.0	2.9	2.8	2.6	3.4
70歳代以上	2.6	2.9	2.7	2.7	2.6	3.1
合計	2.8	2.9	2.9	2.7	2.6	3.2

表 8-3-1 と表 8-3-2 より、次のような解釈ができます。

「1 そっとしておけば部落差別はなくなる・逆」、「2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる・逆」、「4 部落差別について学習するから差別はなくならない・逆」という考えについて、10代、20代において平均値が高くなっています。また、「6 部落差別をなくすために啓発活動に力を入れるべきだ」という考えについては、10歳代、20歳代において、それより上の年代よりも平均値が高くなっています。しかし、「7 部落差別などの同和問題を知らない」については、50歳代よりも年齢の低い人びとにおいて、平均値が低くなっています。「5 今後も部落差別はなくならないと思う」については、60歳代よりも低い年代において平均値が低いことがわかります。

これらの結果から、年齢と部落差別に関する人権意識との関連について、年齢が低いほど人権意識が高い、あるいは、低いと結論づけることは困難です。

表 8-4-1 は、職種と部落差別についての考え方との関連をみたものです。

すべての項目について職種との間に統計的有意差が認められました。

表 8-4-2 は、職種ごとの平均値を求めたものです。

表 8-4-1

		合計	そう 思う	言 え ば そ う と 思 う	ど ち ら か と 思 わ な い	言 え ば そ う と 思 わ な い	そ う は 思 わ な い	統 計 的 検 定
1 そっとしておけば部落差別はなくなる	自営業	70	17.1%	30.0%	24.3%	28.6%	p<.001 ***	
	自由業	14	14.3%	21.4%	28.6%	35.7%		
	公務員・教員	61	3.3%	23.0%	26.2%	47.5%		
	経営者・役員	35	20.0%	48.6%	11.4%	20.0%		
	正規職員	321	9.7%	28.0%	25.5%	36.8%		
	非正規職員	280	8.6%	28.2%	29.6%	33.6%		
	学生	166	10.8%	16.3%	31.3%	41.6%		
	無職	414	15.5%	28.5%	27.8%	28.3%		
合計	1361	11.8%	27.1%	27.4%	33.7%			
2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる	自営業	71	12.7%	21.1%	22.5%	43.7%	p<.001 ***	
	自由業	14	0.0%	42.9%	21.4%	35.7%		
	公務員・教員	60	5.0%	26.7%	28.3%	40.0%		
	経営者・役員	35	11.4%	28.6%	20.0%	40.0%		
	正規職員	321	11.5%	30.5%	22.7%	35.2%		
	非正規職員	283	8.5%	32.2%	27.2%	32.2%		
	学生	166	5.4%	13.9%	24.1%	56.6%		
	無職	414	7.0%	33.1%	28.3%	31.6%		
合計	1364	8.4%	29.0%	25.7%	36.9%			
3 差別を受けてきた地域の人びとには、なんら差別される理由はない	自営業	70	55.7%	28.6%	8.6%	7.1%	p=.004 **	
	自由業	14	42.9%	14.3%	28.6%	14.3%		
	公務員・教員	60	65.0%	23.3%	8.3%	3.3%		
	経営者・役員	35	71.4%	22.9%	0.0%	5.7%		
	正規職員	319	56.1%	30.4%	9.1%	4.4%		
	非正規職員	283	51.2%	38.9%	6.0%	3.9%		
	学生	162	69.1%	19.8%	6.2%	4.9%		
	無職	414	55.1%	32.9%	7.5%	4.6%		
合計	1357	57.0%	30.9%	7.5%	4.6%			

つづき

		合計	そう思う	言えばそう思う	どちかわない	言えちらかと	そうは思わない	統計的検定
4 部落差別について学習するから差別はなくなる	自営業	69	15.9%	21.7%	33.3%	29.0%	p<.001 ***	
	自由業	14	0.0%	14.3%	57.1%	28.6%		
	公務員・教員	61	3.3%	8.2%	37.7%	50.8%		
	経営者・役員	35	8.6%	40.0%	28.6%	22.9%		
	正規職員	318	12.9%	22.0%	34.3%	30.8%		
	非正規職員	280	7.5%	25.4%	37.5%	29.6%		
	学生	165	4.8%	13.9%	37.6%	43.6%		
	無職	412	12.6%	23.5%	32.8%	31.1%		
合計	1354	10.2%	21.9%	35.1%	32.8%			
5 今後も部落差別はなくなると思う	自営業	68	17.6%	27.9%	25.0%	29.4%	p=.008 **	
	自由業	14	7.1%	28.6%	50.0%	14.3%		
	公務員・教員	61	3.3%	29.5%	37.7%	29.5%		
	経営者・役員	35	5.7%	14.3%	40.0%	40.0%		
	正規職員	319	11.9%	37.6%	31.0%	19.4%		
	非正規職員	282	10.3%	41.1%	27.3%	21.3%		
	学生	165	9.1%	34.5%	37.6%	18.8%		
	無職	413	11.6%	30.0%	34.6%	23.7%		
合計	1357	10.8%	34.1%	32.6%	22.5%			
6 部落差別をなくすために啓発活動に力を入れるべきだ	自営業	70	14.3%	35.7%	27.1%	22.9%	p<.001 ***	
	自由業	14	0.0%	28.6%	71.4%	0.0%		
	公務員・教員	60	25.0%	41.7%	25.0%	8.3%		
	経営者・役員	35	17.1%	22.9%	48.6%	11.4%		
	正規職員	318	11.0%	41.2%	34.0%	13.8%		
	非正規職員	278	14.7%	43.5%	31.7%	10.1%		
	学生	165	18.2%	52.7%	21.2%	7.9%		
	無職	409	12.0%	39.9%	33.3%	14.9%		
合計	1349	13.8%	41.8%	31.7%	12.7%			
7 部落差別などの同和問題を知らない	自営業	68	5.9%	27.9%	23.5%	42.6%	p<.001 ***	
	自由業	14	0.0%	14.3%	28.6%	57.1%		
	公務員・教員	60	1.7%	0.0%	23.3%	75.0%		
	経営者・役員	35	5.7%	14.3%	11.4%	68.6%		
	正規職員	319	9.7%	19.7%	22.9%	47.6%		
	非正規職員	277	7.6%	12.3%	21.7%	58.5%		
	学生	165	16.4%	18.8%	26.1%	38.8%		
	無職	411	6.6%	19.2%	22.4%	51.8%		
合計	1349	8.4%	17.3%	22.7%	51.7%			

表 8-4-2

F3 職業	1 そっ としてお けば部落 差別はな くなる・ 逆	2 引っ越し をする場合、 差別を受けて きた地域かど うか気にな る・逆	3 差別を受 けてきた地域 の人びとに は、なんら差 別される理由 はない	4 部落差 別について 学習するか ら差別はな くならな い・逆	5 今後 も部落差 別はなく ならない と思う・ 逆	6 部落差 別をなくす ために啓発 活動に力を 入れるべき だ	7 部落差 別などの 同和問題 を知らない ・逆
自営業	2.6	3.0	3.3	2.8	2.7	2.4	3.0
自由業	2.9	2.9	2.9	3.1	2.7	2.3	3.4
公務員・教員	3.2	3.0	3.5	3.4	2.9	2.8	3.7
経営者・役員	2.3	2.9	3.6	2.7	3.1	2.5	3.4
正規職員	2.9	2.8	3.4	2.8	2.6	2.5	3.1
非正規職員	2.9	2.8	3.4	2.9	2.6	2.6	3.3
学生	3.0	3.3	3.5	3.2	2.7	2.8	2.9
無職	2.7	2.9	3.4	2.8	2.7	2.5	3.2
合計	2.8	2.9	3.4	2.9	2.7	2.6	3.2

表 8-4-1 と表 8-4-2 より特徴的な傾向を列挙します。総じて、公務員・教員の点数が高く、部落差別について人権意識の高さが読み取れます。「1 そっとしておけば部落差別はなくなる・逆」という考えに、経営者・役員の平均値が低くなっています。「2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる・逆」では、正規職員、非正規職員において平均値が低く、学生で平均値が高くなっています。「4 部落差別について学習するから差別はなくなるならない・逆」では、自営業、正規職員、無職において、平均値が低く、公務員・教員、学生で平均値が高くなっています。「5 今後も部落差別はなくなるならないと思う・逆」という考えでは、正規職員、非正規職員において平均値が低く、経営者・役員で平均値が高くなっています。「3 差別を受けてきた地域の人びとには、なんら差別される理由はない」については、経営者・役員において平均値が最も高いことがわかります。「6 部落差別をなくすために啓発活動に力を入れるべきだ」において、自由業、次いで、自営業で平均値の低さが目立ちます。そして、「7 部落差別などの同和問題を知らない・逆」では、学生において平均値が低くなっています。

職種と部落差別に関する考え方との関連について、公務員・教員の意識は他の職種よりも高い傾向にあります。

地区別の部落差別についての考え方についてクロス集計を行ったところ、統計的に有意な傾向が見られるのは、表 8-5-1 の「2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる・逆」の考えについてです。

表 8-5-2 は、有意差が認められた項目について平均値を示しています。

表 8-5-1

		合計	そう 思う	言 え ば そ う と 思 う	ど ち ら か と 思 わ な い	言 え ば そ う と	ど ち ら か と	そ う は 思 わ ない	統計 的 検 定
2 引っ越しをする場合、差別を受けて地域かどうか気になる	三田地区	156	12.8%	28.8%	25.6%	32.7%	p=.004 **		
	三輪地区	178	6.2%	27.5%	29.8%	36.5%			
	広野地区	57	1.8%	19.3%	40.4%	38.6%			
	小野地区	27	0.0%	37.0%	18.5%	44.4%			
	高平地区	35	5.7%	17.1%	20.0%	57.1%			
	藍地区	25	20.0%	16.0%	20.0%	44.0%			
	本庄地区	23	4.3%	30.4%	4.3%	60.9%			
	フラワータウン地区	271	8.1%	32.1%	21.8%	38.0%			
	ウッディタウン地区	435	9.0%	31.5%	26.0%	33.6%			
	カルチャータウン地区	48	12.5%	14.6%	31.3%	41.7%			
	つつじが丘地区	86	3.5%	31.4%	23.3%	41.9%			
	合計	1341	8.2%	29.1%	25.4%	37.3%			

表 8-5-2

F4地区	2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる・逆
三田地区	2.8
三輪地区	3.0
広野地区	3.2
小野地区	3.1
高平地区	3.3
藍地区	2.9
本庄地区	3.2
フラワータウン地区	2.9
ウッディタウン地区	2.8
カルチャータウン地区	3.0
つつじが丘地区	3.0
合計	2.9

表 8-5-1 と表 8-5-2 より、「2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる・逆」について、高平地区、広野地区、本庄地区では平均値が高いことがわかります。しかし、この結果だけで部落差別に関する人権意識に地域差があると結論づけることはできません。

問9 次の「障害のある人の人権」に関することがらについて、あなたのお考えを教えてください。
(それぞれ一つに○をつけてください)

問9は、「障害のある人の人権」に関する考え方について問うたものです。

表9-1によると、「1 身近に住む障害のある人が虐待を受けている疑いがあると感じたら、通報することが望ましい」、「4 障害のある人が地域で暮らせるようにサポートすることが望ましい」、「6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない」という考えについては、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」を合わせた YES が90%を超えています。「2 障害のある人にはかかわりたくない」、「3 近所に障害者施設が建つのはいやだ」の考えでは、「どちらかと言えばそう思わない」、「そうは思わない」を合わせて NO が80%を超えています。YES が10%を超えています。「5 出生前診断は「命の選別（出生前診断）」につながるから避けるべきだ」は、NO が70%弱を占めています。そして、「7 普段の生活の中で、合理的配慮が進められていると感じる」という考えでは、YES が約60%となっています。

表9-1の右端の数値は、各項目の平均値を求めたものです。各項目の平均値を求めるために、人権意識の高いほど点数が高くなるように操作します。「1 身近に住む障害のある人が虐待を受けている疑いがあると感じたら、通報することが望ましい」、「4 障害のある人が地域で暮らせるようにサポートすることが望ましい」、「5 出生前診断は「命の選別（出生前診断）」につながるから避けるべきだ」、「6 障害のある人をじろじろみたり、避けたりすることは望ましくない」については、「そう思う」4、「どちらかと言えばそう思う」3、「どちらかと言えばそうは思わない」2、「そうは思わない」1とします。「2 障害のある人にはかかわりたくない」、「3 近所に障害者施設が建つのはいやだ」、「7 普段の生活の中で、合理的配慮が進められていると感じる」については、「そう思う」1、「どちらかと言えばそう思う」2、「どちらかと言えばそうは思わない」3、「そうは思わない」4とします。これらの項目の末尾に（逆）を付します。

表9-1の平均値をみると、「5 出生前診断は「命の選別（出生前診断）」につながるから避けるべきだ」の数値が最も低くなっています。ただ、出生前診断の是非については、この項目に YSE と回答すれば人権意識が高く、NO と回答すれば人権意識が低いとは決めることができない現状にあることは確かです。